

令和2年度事業報告書

社会福祉法人睦福社会の運営概要

本年度は創立40年目にして、経験したことのないコロナウイルス感染拡大防止ということで国や市から緊急事態宣言の発出を受け、4月から園児の登園の減少・職員の交代休暇等の配慮等、心労の多いスタートとなり、行事等の中止変更等も多々あったが、パンデミックなので仕方のないことだとは思ったが、日々クラスターを発生させたらと不安の中での業務であった。しかし、園運営の進め方もすぐに中止するものでなく、できる方策をとということで、職員と相互理解しながら運営を進めてこられ、保護者からも一定の評価は得ることができたと確信しているところである。これを励みに、保護者や地域の人々から信頼される保育園づくりに邁進していきたいと思っています。

1. 施設名 あかつき保育園
2. 種 別 保育所
3. 定 員 95名
4. 園長名 金城邦子
5. 職 員 27名（常勤11名 非常勤8名 パート8名）
6. 措置児在籍数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
1歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
2歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
3歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
4歳児	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	21	257
5歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
合 計	95	95	95	95	95	94	94	94	94	94	94	94	1133

7. 施設事業運営

(1) 園児の処遇

(イ) 園児組編成

同学年による組編成としてきた。

特に0歳児担任は、育児経験者を配置し、又、他のクラスも経験、年齢等を考慮し適材適所に配置したため保育の効果をより高めることができた。

(ロ) 健康管理

登園時の視診は丹念に行い異状の有無の早期発見に努めるようにした。

尚、異状が発見された場合は、保護者と連絡を取り合い善処した。特に乳児や未満児には、細心の注意を払い家庭と連絡を密に取るようにした。(連絡帳を多いに活用した。)

又、嘱託医の今西康次先生(じねんこどもクリニック)による年二回の健康診断及び中部地区医師会成人病検診センターによる蟯虫尿検査を実施し健康保全に努めるようにした。

又、歯科医師の黒潮先生(うしお歯科クリニック)による歯科検診も年二回実施し歯科衛生の啓蒙及び意識の向上に努めた。めろん組は虫歯予防対策の一環としてフッ化物洗口を実践導入した。

(ハ) 栄養面の管理

市の栄養士の作成した献立表に基づく給食を実施し乳児食、幼児食に分けて調理をしてきた。特に乳児は個別の発達に適した離乳食から幼児食への移行を無理のないように実施して来た。

又、偏食、小食、食欲不振の子は家庭と連絡を取り合って栄養のバランスがくずれないように配慮した。

又、食育にも力を注ぎ、年五回食育集会を開催し、園児に食の大切さや関心を高め学習する機会を与えることができた。

(ニ) 保育内容

新保育指針に基づく保育内容に意識して、特に社会問題化している児童虐待の早期発見に努めるようにした。又、特に心の教育を最重要視して日々の保育に臨むようにして来た。これまでの保育の見直しをし子どもの主体性を育てることに特に意識をするようにした。

尚、当然ながら基本的な生活習慣の確立をはかることを主軸とした個別指導を基本とする保育内容にし、子どもたちが生き生き楽しんでいるかを常に感じとるようにしてきた。

特に、0, 1歳児は個別保育によるカリキュラムとし、常に子どもの心理状態を把握しながら発達段階に即した無理のない保育内容で全面発達を促すようにしてきた。特に個を尊重する保育をこころがけるようにした。

又、ミュージックステップ学習においては楽しい雰囲気を進めるようにし、常に子どもの状態を把握しながら進めるように留意してきた。

縦割り保育は、体育ローテーションや2ヶ月に1回のリトミックや散歩、あるいはクッキング等をとおして実施し、年齢差をこえてよりよい関係づくりで充実していた。今年度は、これまでの保育を見直しつつ、主体性のある保育をとということで、2歳以上児クラスは異年齢保育を試みる等、少しずつできることからやる方向で保育士たちも意識の変化ができるようになった。

11月より月1回(第2木曜日)ボランティアによる読みきかせ等も導入し交流を深めることができた。毎月2回専門講師による体育教室(2歳児以上)と、

サッカー教室（3.4.5歳児）を実施して運動能力を高める等、体力づくりの一層の強化を計るようにした。又、外人講師による英語教室も園児たちの楽しみのひとつとなっていて、異文化について学習ができていた。

（ホ）安全管理

月一回災害訓練を実施し万一に備えるようにした。常日頃より避難の際には周囲の大人の指示に従うことができるよう言い聞かせてきた。

又、お散歩等の園外保育を通して交通ルール等の理解を深めさせ危険性について認識させるようにした。

園舎内外の危険箇所の点検を実施し未然防止に努め事故のないように注意をはらってきた。

（ヘ）環境整備

植物の栽培を通して豊かな情操を育てるようにした。

知育教材のつみ木活動にも力を注ぎ、園児たちも好きな教具のひとつとして集中して遊び込むなど効果を上げることができた。

担任や保育士等の経験不足と多忙さで、時間もとりにづらく栽培活動は十分なまでとはいかないがいくらかは体験することができた。

（ト）衛生管理

清潔の習慣がつくように指導の徹底をはかるようにしてきた。

食前食後の手洗い、入室したときの手洗いや冬場のうがいの励行、歯磨きの励行を意識させてきた。各クラスにはインフルバスター（マイナスイオン発生器）や、プラズマイオンバクテクターを設置し感染予防に努めた。

食器の保管には、細心の注意を払い調理員は清潔な白衣を着用し、手指の消毒を励行し、害虫の侵入を防ぐようにし又、調理室にはオゾン発生器を設置し、伝染病の予防に努めた。

（2）職員の処遇

（イ）健康管理

全職員年一回の健康診断を中部地区医師会検診センターにより実施した。調理員は欠かさず毎月の検便を実施し伝染病予防に努めた。

（ロ）労務管理

就業規則を十分に活用し職員が快適に業務に専念できるように配慮した。

週労働時間は40時間以内になるように配慮し、年休も取りやすいようにしてきた。

（ハ）研修、講習

今年度はコロナ禍のため、対面での参加研修の機会はなく、オンライン研修が主で必要性を感じずるものは、その研修を受講した。なれなくて戸惑いも感じた。

（ニ）職員会

土曜日は週休の兼ね合いから、平日に実施して来た。

必要に応じて土曜日に実施した場合もあった。そして、参加者全員が発言の機

会を与えられ、そこで常に職員全体の共通理解をはかるようにしてきた。
その他の保育会議、給食会議も毎月一回実施し、園児のそれぞれの把握に努めるようにし、課題ある子どもについては園全体でその改善をはかるように配慮してきた。

(ホ) 福利厚生

職員間の親睦を深めるためのバーベキューや、忘年会も中止となり職員間の親睦交流をはかることはできなかった。計画していた歓送迎会は新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(3) 保護者会

(イ) 総会

例年どおり予定していたが、コロナ禍のため密を避けるため中止となった。

(ロ) 講演会

コロナ禍のため中止となった。

(ハ) 保育参観及び懇談会

6月・11月の計画していた保育参観・懇談会はコロナ禍のため中止となったが、9月～10月には保護者と各クラス担任との個別の面談を実施し、こどもへの理解をより深め保育の方向性を見いだすようにした。

8. 施設事業管理

(1) 事務関係

(イ) 事務の簡素化

コンピューターをリースで導入した。会計が複雑なため、毎月の指導をEY税理士法人事務所へ委託したため、安心することができた。

(ロ) 毎月一回、園だより、クラスだより、献立表、給食だより、保健だよりを発行し、保護者と共通理解を図ることができた。

又、ホームページでブログを立ち上げ、保護者へ配信をし喜ばれている。

(2) 備品関係

(イ) インフルエンザやその他の除菌対策として、国庫補助でコロナ対策としておもちゃ殺菌庫と空気清浄機を購入設置した。

その他

恒例行事となっている運動会は規模を縮小し、発表会も無観客でDVD撮影で保護者に購入していただいたり、又、園児の大好きなプール遊びも水遊びに変更、えんそくもバスは借用せず徒歩で行ける範囲にしたりなどの工夫の一年となり大変であった。変更せざるを得なかった。